

【環境影響評価の技術的動向（生活環境）】

○ 京都会場

市川 陽一 龍谷大学 理工学部 環境ソリューション工学科 教授

教科名：環境影響評価の技術的動向（生活環境）

参考文献：

1. 板橋秀一、速水洋(2016) 2010 年度を対象としたトレーサ法によるわが国の微小粒子状物質(PM_{2.5})の発生源寄与評価、大気環境学会誌、51 巻 5 号、p. 197-217
2. 市川陽一 (2010) 大気拡散と環境アセスメント、龍谷理工ジャーナル、22 巻 1 号、pp. 30-38、<https://www.rikou.ryukoku.ac.jp/images/journal58/RJ58-04.PDF>
3. 市川陽一(2012) 環境アセスメントにおける大気質予測の 3 次元数値モデルの適用性、環境アセスメント学会誌、10 巻 2 号、pp. 77-86
4. 岡本眞一・市川陽一編著 (2005) 環境学概論 (第 2 版)、産業図書、第 11 章「大気汚染気象と煙の拡散」、pp. 91-108
5. 経済産業省：発電所に係る環境影響評価の手引、(2017 改訂) (原子力安全・保安院 1999、経済産業省 2015 改訂)
http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/electric/detail/tebiki.html
6. 大気環境学会ガイドライン (2013) CFD モデル(DiMCFD)による大気環境アセスメント手法ガイドライン、水野建樹監修、(大気環境学会から CD を購入可能)
7. 電力中央研究所(2000) 電中研レビュー38「大気拡散予測手法」、電力中央研究所 HP で閲覧可能可能
<https://criepi.denken.or.jp/research/review/No38/index.html>
8. 日本原子力学会(2012) 発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準：2011 (AESJ-SC-A004:2011)